

組織・グループ名	横浜「当事者研究」会
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<p>● ○一般助成</p> <p>○①当事者支え合い・当事者支援の促進                      ②地域福祉コース(課題)への対応</p> <p>③福祉の学び(参加型福祉教育)の推進                      ④福祉コミュニティの構築]</p> <p>● 協働事業助成</p> <p>[ 1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動</p> <p>2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動 ]</p>
助成事業名	「ピアサポーターカレッジ」の開催と当事者連携の地域展開事業
<p>助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。</p> <p>《事業目的》</p> <p>精神障がいを抱えて暮らす人が、障害福祉・医療・企業・生活の現場において自らの当事者性を活かし乍、仲間を支援する“ピアサポーター”は、精神障がい当事者にとり社会生活をおくるうえに欠かせない存在であり、地域における“ピアサポーター”の必要性は高まっています。</p> <p>個々にピアサポート活動される方が多い中、活動することにより自身の体調を崩されるのも現実です。当事者同士の連携を図り、孤立を防ぎ、要支援者への支援の向上と社会参加を促すことを目的とします。</p> <p>《概要》</p> <p>テーマ『ピアサポーターカレッジ』～やってる人もやってない人も～</p> <p>平成20年から実施してきた自助プログラム「当事者研究」の経験を活かし、共通したものを軸にお互いが支え合い、いわゆる治療が目指すもの(生活者の仲間になること)を学ぶ場として地域に開いて実施。</p> <p>全4回 対象者：当事者及び地域市民。</p> <p>第1回 オリエンテーション・ピアサポート概論・当事者研究。</p> <p>第2回 薬の話・有効的な自己対処法・当事者研究。</p> <p>第3回 地域でのピアサポーターの役割について・当事者研究とは！？</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、講師の先生をお迎えすることが出来なくなり、北海道医療大学と北海道浦河べてるの家と会場をZOOMでつなぎ実施しました。</p> <p>第4回 振り返りグループミーティング・修了証書授与・当事者研究。</p> <p>講師：MCメディアン代表・NPO法人BASE代表理事・医療法人宙麦会理事 向谷地 宣明氏 北海道医療大学教授 向谷地 生良氏</p> <p>協力：北海道浦河べてるの家メンバー・コミュニティーハウスべてくろ</p> <p>*今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止や緊急事態宣言発令の為に実習が出来なくなった事が残念でした。又、中々会場に来られない方や、講師の先生をお迎え出来ない状況のなかでの開催になりましたが、ZOOMを取り入れて無事4回実施することが出来ました。</p> <p>ZOOM開催でとてもよかった点は、自宅はもとより、入院中の方の参加が可能になった事でした。</p> <p>今後の展開として、遠くの方・病院に入院中の方などと会場が繋がれて、新たな繋がりの輪が広がることに希望がもてました。</p>	